

第82号  
2014年11月



発行  
群馬県生協連女性協議会  
群馬県前橋市大手町3-19-3  
『風』はホームページでもご覧いただけます  
<http://gunma.kenren-coop.jp/>  
メール:mail@gunma.kenren-coop.jp

## 女性協視察研修会を開催、41名が参加 10月23日(木) 国立ハンセン病療養所栗生楽泉園内にできた重監房資料館を見る

今年の女性協視察研修会は県内7生協39人の組合員の方（他に県連2人）が参加してください、草津の重監房資料館と草津熱帯圏を見学しました。

重監房資料館は、今年4月30日にオープンした、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指して厚生労働省が設立した国立の資料館です。

重監房は昭和13年に建てられ、隔離政策で強制入所させられたハンセン病患者の特に反抗的とされた延べ93名が収監され、患者を重罰に処するための監房



重監房跡（資料から）

として昭和22年まで使われていました。収監は正式な裁判

によるものではなく、療養所長の権限で行われ、患者の人権は完全に無視されていました。正式名称の特別病室とは名ばかりで、治療もなく過酷な環境（4.5メートルのコンクリートの高い壁に囲まれた木造平屋の四畳半の8つの部屋。小さな窓だけで昼間でも暗く、電灯はあるが電気がきいていない。一日2回の粗末な食事。草津は12月には雪が降り、マイナス20度になる

こともあったが、暖房もなく、中も外と同じ気温）の中、9年間で23名が亡くなったと言われています。

現在、重監房の建物は基礎部分が残っているだけですが、ハンセン病問題に関することを負の遺産として人の命の大切さ、人権尊重を伝えていくためにこの資料館が建てされました。自分たちが体験した悲劇を二度と繰り返してはならない。その再発防止のためにぜひ復元をという元患者の皆さんとの強い希望と全国の支援の力で実現したそうです。

資料館に復元された重監房の部屋は、薄い布団があるだ

けで、まさに牢屋でした。「らいを病むがゆえにこの悲劇 なんというみじめさよ」重監房の一室に書かれていたこの言葉がすべてを物語っています。発掘調査で出土したいくつもの南京錠などの遺物も衝撃的でした。

近くにある納骨堂には家族のもとに帰れない1,200名ものお骨が収められているそうです。安らかにお眠りくださいと手を合わせました。



納骨堂で手を合わせました



重監房資料館前で（見学前に撮影）



展示物の説明を聞きながら見学

草津熱帯圏では250種1000頭もの動物が飼育されているそう

です。高さ15メートルの大ドームの中は熱帯のように暖かくなっていて、カピバラやミーアキャットなど多種多様な動物がいました。また神秘の魚ガラ・ルファによるフィッシュセラピーも体験できました。

今回の視察研修会では、命の大切さ、人権について過去の歴史から学び、二度と繰り返さないためには、私たちはどうしたらいいか？考えさせられる1日となりました。

また、今回多くの生協の方々に参加していただきました。これからも女性協として組合員の輪が広がっていくことを願い、帰路につきました。

編集委員 下山淳子（コープぐんま）

### （参加者の感想）

#### ハンセン病のことども

中野良枝さん（北毛保健生協）

これまで女性協の催しに4～5回参加し、勉強になることばかりだった。このたびの視察研修会に北毛保健生協から5人が参加した。

実を言うと、この問題については（私のこともふくめ）いっさいを中野泰が「人間の行方、ハンセン病添い走り50年」（全3冊）に書いているので私が出る幕はないのだが、誘いを受けて栗生楽泉園を尋ねた。思えば10年ぶりになる。

私は北毛保健生協を退職した2000年からハンセン病裁判に関わり、鶴雄二さんとともに全国を回ることになった。

2001年5月11日、熊本地裁で勝訴の判決を得る。私は車椅子を押してその法定に入っていて大きな感動に浸った。すぐ東京に飛び、原告団・弁護団が政府・国会に控訴断念を求めた。私は車椅子を押して1日中めまぐるしく走った。

それから鶴さんは新聞やテレビに囲まれ、また全国から講演に招かれた。私が走らせた車は半年で4万キロになった。

こうした5年間を終わり、（途中は省くけれど）ハンセン病から離れ、10年を経た。

今度の研修で得た感想はふたつ。

①重監房は人知れない山のくぼみにあり、肌も凍るところだった。

こんな明るい、きれいなところではなかった。

②私たちは自由に療舎を訪ね、語り合った。の人たちとは友人でもあった。今はプライバシーを盾に止められている。

それもこれも10年のしつきだろうか。



謝罪する坂口厚労相

## 第21回女性協定期総会を開催しました 6月19日(木) アトラクションではオカリナ四重奏の音色を楽しみました

6月19日(木)前橋問屋センター会館にて群馬県生協連女性協議会第21回定期総会が開催されました。会員生協から代議員48名、オブザーバー36名が出席しました。

司会の山田千枝委員（はるな生協）の進行により、議長には木村よし枝代議員（はるな生協）が選出され議事に入りました。

はじめに、県生協連中島源治会長理事と女性協清野紀美子会長から、格差社会や貧困問題など抱える日本の現状や、男女共同参画の立場で女性パワーの重要性等の話がありました。続いて、来賓の県生活文化スポーツ部消費生活課赤羽昌巳課長補佐、県ぐんま男女共同参画センター角田淑江所長から、悪質化していく消費者被害への注意喚起、男女共同参画の意義などをお話しいただきました。

議事は第3号議案まで活発な発言など充実した中、満場一致で承認されました。今回は役員改選もあり、清野会長他4名が退任し、松本勉枝新会長のもと新たな役員体制で活動を進めること



第21回定期総会のようす

が確認されました。

総会のあのアトラクションでは、オカリナ四重奏団『アンサンブル・オウル』(代表栗原昭矩氏)によるコンサートを行いました。唱歌やミサ曲などの美しい音色に、会場のみなさんは日々の疲れを忘れるようでした。目を閉じて想像の翼を広げて聴き入る姿も見られました。

アンケートには、「活動方針など大変わかりやすかった。」「女性の活動に大きな期待を持っている。」などたくさんのご意見をいただきました。またアトラクションについても、「心が癒された。」「涙が出るほど感動した。」など感想が寄せられ大変喜んでいただけました。



オカリナ四重奏団「オウル」の演奏

編集委員 西原友美 (パルシステム群馬)

## 総会で退任された運営委員さんから一言いただきました

星野小夜子さん(群馬中央医療生協)

長い間大変お世話になりました。

男女共同参画は家庭からと実践してきましたが、私は最近特に日本の政治を憂っています。(略)

役を退いてもじつとしてはいられません。多くの皆さんと力を合わせて押し返す活動を進めていきたいと思います。

最後に、他生協の役員さんと活動できた事は私の宝です。感謝しております。



福田千佳さん(県庁生協)

短い間でしたが大変お世話になりました。運営委員会では、学習会や、他の団体の活動について話を聞いたりすることができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。

清野紀美子さん(前会長/コープぐんま)

共通の事柄についての意見交換や見学・勉強会など、県連女性協議会での活動は、普段の生活や生き方に新風を吹き込んでくれるものでした。各会員生協からの皆さんと過ごした4年間は楽しく、充実した日々で、良い思い出となっています。お世話になりました。

山田千枝さん(運営委員/はるな生協)

女性蔑視の発言が、議会等で相次いでいます。なぜでしょう。運営委員会で考え方学習した事を思い出します。微力ですが、私も地域で頑張ります。本当にお世話になり、有難うございました。

to 宮澤孝子さん(北毛保健生協)

ありがとうございましたm(\_)\_m

## 総会で選出された役員を紹介します



左から松本勉枝会長(県連理事、コープぐんま)、猪俣友子委員(北毛保健)、甫仮文子委員(群中)、秋山ユミ子副会長(生活クラブ)、藤原京子委員(利根保健)、下山淳子委員(コープぐんま)、西原友美委員(パルシステム)  
他に狩野清美委員(学校)がいます。(はるな生協は選考中)

女性協会長 松本勉枝(県連理事/コープぐんま)

私は今期県連女性協議会会長に就任しました松本勉枝(まつもとやすえ)です。

県連女性協議会では、運営委員の力量向上とともに、各会員生協の「共同参画の理解を広げる」ことを目標に、生協の事業や活動の中で具体的な取り組みの応援をすることに力を入れています。

運営委員会を毎月開催し、各会員生協から構成される9名の運営委員と女性協の目的やめざすもの共有し、交流や学習等を通して取り組み推進の活動をしています。

委員の皆さんと力を合わせて、誰もが安心して気持ちよく暮らせる社会になるように、活動を広げていきたいと思います。

それには会員生協の皆様のご理解とご協力が必要です。皆様にはこれからもどうぞご指導・ご協力のほどよろしくお願ひいたします。  
また至らない点もありますが、精一杯やっていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

## 会員生協活動紹介

各生協から寄せていただいた原稿をそのまま掲載しています。

### パルシステム群馬

#### パルシステム群馬の託児はパルピよにお任せ！

「安心して預けられるの」「スタッフが親切」「パルピよ大好き」と組合員に喜ばれているパルシステム群馬の託児。パルピよは託児で組合員活動をサポートしています。アレルギー対策、感染予防、防犯対策、子ども同士のトラブル防止などにも配慮しています。おもちゃは月に一度消毒します。スタッフのスキルアップのため研修も行います。今年は小児・乳幼児対象の「普通救命講習Ⅲ」を修了しました。子どもたちのかわいい笑顔や寝顔に癒されながら、安全に託児が行えるよう努力しています。



エプロンシアター

また、子育て支援活動として親子で自由に参加できる「パルピよひろば」を定期的に開催しています。今年度からはイベントも取り入れ、エプロンシアター やミニエクササイズなどは大好評でした。親子で交流できる楽しい場所になっています。

パルピよは、かわいい子どもたちや組合員のために頑張り続けます！



### ユーペぐんま

#### 今年度は次の7点の方針を柱に取り組みをすすめています

1. 消費税増税など、組合員のくらしと生協を取り巻く事業の環境が一層厳しさを増す中、経営基盤の強化を進めます。
2. 食を中心とした事業を通して、笑顔あふれる食卓を応援し、「日本を、食卓から元気にしたい。」のメッセージのもと食の取り組みを進めます。
3. 「おいしさと安心を、ほしいときにお届け」を事業目標に、宅配で「食のNo.1」を目指します。
4. 「おいしさと安心を、うれしい価格で」を事業目標に、既存店の黒字構造の確立を進めていきます。
5. 保障事業、サービス事業に関わる取り組みを進めます。
6. 組合員のくらしと社会的課題の実現を事業と活動で応え続け、組合員のくらしと豊かな地域社会づくりに貢献します。
7. ビジョン2025「食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ。」にもとづき、事業革新と社会的課題の解決を目指します。

